

## 1. 単元名 戦争に向かう世論

## 2. 単元について

## (1) 生徒の実態

## (2) 題材観

本単元は、学習指導要領（平成29年告示）第2章第2節 歴史的分野の内容C(1)「近代の日本」に基づき、設定した単元である。

1920年代のアメリカは、世界一の経済力をもつ国に成長し、人々の生活は豊かになっていた。第一次世界大戦後のヨーロッパ諸国の生産がしだいに回復し、インドや中国でも工業が発達するようになると、アメリカの製品は売れなくなってきた。1929年、ニューヨークで株価が大暴落すると、アメリカは不景気に陥り、銀行の倒産が相次いだ。この不景気は世界中の国々にも広がり、世界恐慌となった。世界恐慌に対して、アメリカはニューディール政策、イギリスやフランスはブロック経済によって克服しようとした。その中で、第一次世界大戦後に戦勝国でありながら領土拡大が認められなかったイタリアや敗戦国のドイツでは、不景気に見舞われ、有効な打開策が見いだせない中、人々の不満が高まっていった。不景気の解決を訴えて人々の支持を集めたムッソリーニやヒトラーが台頭し、ファシズム体制を世論が支持するようになった。

1920年代の日本では、戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌など繰り返し不景気に見舞われた。1930年以降は世界恐慌の影響を受け、日本経済は極めて大きな打撃を受けた。不景気の中で、多くの企業が財閥に支配されるようになり、市場を独占した財閥が高い利益を上げるようになった。都市では、失業者があふれ、農村では生糸の輸出不良のため養蚕業が衰退し、農家収入が激減した。各地で生活苦の解決を求めて、労働争議や小作争議が激しさを増し、人々が不安をもつ時代となった。世界恐慌時の首相は立憲民政党の浜口雄幸で、政党内閣であった。浜口内閣は財政緊縮政策を取っていたため、恐慌に対して有効な手が打てず、不景気は悪化した。この時期にしばしば汚職事件も起き、政党政治への信頼が揺らいだ。また、財政緊縮政策によって軍部との対立も深まった。

中国では、蒋介石が国民政府をつくり、1928年にはほぼ中国を統一した。そうした中で、中国では奪われた主権を回復しようと、南満州鉄道に並行する鉄道を建設する動きが起こる。これに対して、関東軍は1931年9月柳条湖で南満州鉄道を爆破する事件を起こし、中国側に罪をかぶせて攻撃を始めて、満州全体を占領した。不景気によって支持を失っていた政党内閣は軍部を抑えられず、総辞職した。1932年3月、日本は満州国をつくり、実権を握った。国内では、同年5月に五・一五事件が起き、政党政治は途絶えた。1933年、国際連盟において、満州からの日本の軍隊の引き上げが勧告されると、日本は国連を脱退し、国際的な孤立を深めていった。1936年に二・二六事件が起きると、軍部はさらに影響力を強めていった。ちなみに、1930年代には、円安になったことで綿織物の輸出が急増した。また、国家資金の投入で軍需生産が増えた。これらによって日本は景気を回復した。景気回復は、国民が軍部主導の大陸進出を支持する一因となった。

1937年、同じように国際的に孤立していたドイツと日独防共協定を結んだ。日本軍が満州にとどまらず、中国北部にも進軍すると、盧溝橋で日中両軍の衝突が起こり、日中戦争が始まった。抗日民族統一戦線の結成や米英ソの支援などにより日中戦争が長期化すると、国内では国家総動員法が制定され、国民や物資が戦争のために優先的に使われるようになった。さらに、1940年には政党は軍部に対する抵抗をやめ、自ら解散して大政翼賛会として合流した。人々の生活も総力戦に組み込まれ、情報統制が行われたり、配給制が始まったりした。また、尋常小学校は国民学校となり、軍国主義教育が強化された。

「新しい戦前」などの言説が語られる現在にあって、大正デモクラシーの時代から軍国主義の時代へと大きく変化したこの時代を私たちはどう捉えるべきか。本単元では、“戦争の悲惨さ”や“戦争の加害者としての日本”をクローズアップした形で展示などが行われることの多いこの時代について、多面的・多角的に捉え、今を生きる私たちがどのようにアプローチすべきかを考えさせたい。単元を貫く問いとして『日中戦争に向かう日本』展のメインの展示品として、どのような写真を選ぶべきだろうか。」を設定させ、メタヒストリー的な学習を仕組むことで、「自ら社会の形成に関わろうとする生徒」の資質・能力である「新たな課題を見出す」ことや「これまでの課題を吟味する」力を育成することができると考える。

### (3) 指導観

#### ①主体的な学び」のプロセスモデルを生かした単元構成

本単元では、主体的な学び」のプロセスモデルを生かした単元構成を行う。これまでの研究成果を生かし、とくに目標設定と方略計画、方略調整の学習過程に重点を置いた単元構成とする。(表1)

表1 「主体的な学び」のプロセスモデルと単元の学習活動

「主体的な学び」のプロセスモデル	単元の学習活動
目標設定	・単元を貫く問いの設定
方略計画	・今後の学習の見通しを立てる。＝ゴールの設定
遂行	・2～5時の学習
振り返り	・単元を貫く問いに対する考えをまとめ、共有する。 ・ゴールの達成状況の確認
方略調整	・今後の見通しを立てる
遂行	・単元を貫く問いに対する考えを吟味したり、練り直したりする。
全体の振り返り	・単元を貫く問いに対する考えをまとめる。 ・ゴールの達成状況の確認、ゴールの評価 ・単元の学習の振り返り

#### ②自らの考えを表現する場面の重視

本単元の学習においては、複線型の授業構成にすることで、生徒が自らの考えを表現する場面を確実に設定したい。単元を貫く問い『日中戦争に向かう日本』展のメインの展示品として、どのような写真を選ぶべきだろうか。」に対する自分なりの考えをまとめることを目指して、生徒自身に必要な情報や学習方法、学習形態を選択させながら学習を進めたい。より質の高い考えに到達させるためには、定期的に自らの学びを振り返る時間、振り返りをクラス全体で共有し、相互の学習に生かす時間を設定することが必要であると考え。

### 3. 単元の目標

- ・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から日中戦争勃発までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの過程を理解するとともに、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、多面的・多角的に考察したり、軍部の台頭から戦争までの過程に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

- ・軍部の台頭から戦争までの過程について、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

#### 4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から日中戦争の始まりまでの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして軍部の台頭から戦争までの過程について近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軍部の台頭から戦争までの過程について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

#### 5. 指導と評価の計画（全6時間） ○：評定に用いる評価 ●：学習改善につなげる評価

	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
1	<p><b>【日中戦争と総力戦に向かう国民生活】</b>            問い：日中戦争によって、日本はどのように変わったのだろうか。            ・日中戦争の影響についてまとめる。</p> <p><b>【単元を貫く問いの設定】</b>            [単元を貫く問い]            「『日中戦争に向かう日本』展のメインの展示品として、どのような写真を選ぶべきだろうか。」            ・大正デモクラシーから軍国主義への変化に着目して、単元を貫く問いを設定するとともに、解決に向けたゴールを決める。</p>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>●日中戦争について、政治や社会、外交関係などに着目してまとめて説明している。</li> <li>●単元を貫く問いを解決するために必要なゴールを、見方・考え方を働かせて適切に設定している。</li> </ul>

2	<p><b>【世界恐慌と行きづまる日本】</b></p> <p>問い：世界恐慌は、日本にどのような影響を与えたのだろうか。</p> <p>・昭和恐慌による日本経済への打撃、人々の生活の変化についてまとめる。</p>	●			●昭和恐慌後の日本の経済の変化、都市や農村の人々の生活の変化についてまとめて説明している。
3	<p><b>【欧米諸国が選択した道】</b></p> <p>問い：世界恐慌に対して、欧米諸国はどのように対応したのだろうか。</p> <p>・国ごとの対応をまとめる。</p>	●			●国ごとの対応とその対応をとった理由についてまとめて説明している。
4	<p><b>【強まる軍部と衰える政党】</b></p> <p>問い：満州事変後、なぜ軍国主義が強まったのだろうか。</p> <p>・政党政治が途絶え、軍国主義が強まった理由について、複数の視点から考察する。</p>	●			●軍国主義が強まった理由について、「政党」「軍部」「経済」「国際社会・外交」など複数の視点から多面的・多角的に考察している。
5	<p><b>【まとめ①】</b></p> <p>・単元を貫く問いについて、自分なりの考えをまとめる。</p>	○	●		○●これまでの学習内容を活用し、複数の視点をもって考察し、自分なりの考えをまとめている。
6 「本時」	<p><b>【まとめ②】</b></p> <p>・単元を貫く問いに対する考えを共有し、自分の考えを深める。</p> <p>・自らの学びを振り返る。</p>		○		○他者の意見を参考にして、単元を貫く問いに対する自らの考えを深めている。  ○単元を貫く問いを解決するためのゴールの達成度をはかったり、その質を振り返ったりしている。

## 6. 本時について

(1) 日時 令和6年7月5日(金) 14:10～15:00

(2) 会場 山梨大学教育学部附属中学校 3年1組教室

(3) 題材 **【単元のまとめ②】** 単元を貫く問いを追究しよう。

(4) 本時の目標

① 他者の意見を参考にして、単元を貫く問いに対する自らの考えを深めることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

② 単元全体の学びを振り返ることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

(5) 本時の流れ

	【学習内容】 ○学習活動	・指導上の留意点 □評価規準等
導入 5分	<b>【前時の確認】</b> ○前時までの学習を確認する。 ○本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         他者の意見を参考にして、単元を貫く問いに対する自らの考えを深めよう。                     </div>	
展開 40分	<b>【交流・更新・深化】 [30分]</b> ○必要に応じて、各自で意見交換をしたり、これまでの学習を振り返ったりして、自らの考えを更新したり、深めたりする。  <b>【クラス全体で意見共有】 [10分]</b> ○代表生徒が最終的な考えを発表する。	・何らかの形で、必ず「交流」は行うように指導する。 □ワークシート 交流などを通して、自らの考えを深めている。
まとめ 5分	<b>【本時のまとめ】</b> ○本時の学習内容をまとめた教師の話を聞く。 <b>【本時の振り返り】</b> ○単元全体の学びについて振り返る。	□スタディログ（振り返りシート） 単元を貫く問いを解決するためのゴールの達成度をはかったり、その質を振り返ったりしている。

(6) 板書計画

- ・本時の学習の流れを掲示する。

(7) 本時の評価

	A（「十分満足できる」状況と判断されるもの）の例	B（「おおむね満足できる」状況と判断されるもの）の姿	C（「努力を要する」状況と判断されるもの）への支援
①	多様な相手と積極的に意見交流をしたり、自らの学びを振り返ったりする中で、現在の社会の様子を踏まえて、より多面的・多角的な考察をして、自らの考えを更新している。	他者の考えに触れたり、互いに評価し合ったりする活動を通して、より多面的・多角的な考察になるよう、自らの考えを更新している。	自分と違う視点をもった他者と交流したり、複数の視点から考えたりするよう支援する。
②	今後の学習につなげることを意識して、単元を貫く問いの解決のために設定したゴールの達成度をはかったり、適切な設定だったかを振り返ったりしている。	単元を貫く問いの解決のために設定したゴールの達成度をはかったり、適切な設定だったかを振り返ったりしている。	単元を貫く問いに対する自分なりの考えとゴールを照らし合わせ、つながりがあるかどうか考えさせる。